

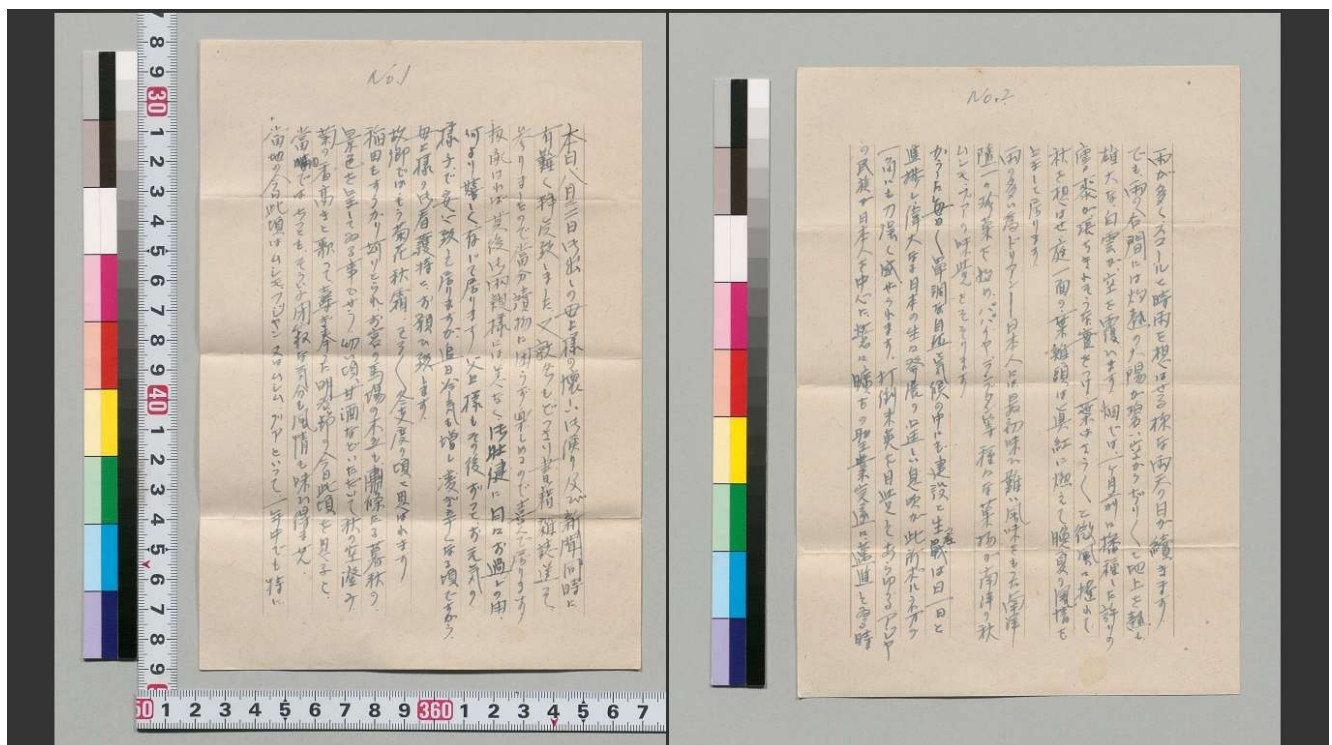
vol.9
Sep.,2025

東京外国語大学文書館報

—Tokyo University of Foreign Studies Archives Newsletter—

Contents

資料紹介 村上博資料群	……………1 頁	東京外国語大学文書館日誌抄録	……………3 頁
連携企画展の開催について	……………2 頁	企画展の案内ほか	……………3 頁



〔写真〕 村上博資料群ボルネオ島からの軍事郵便(1943年11月)

軍事通訳として南方に渡った村上博氏から家族に送られたボルネオ島における近況を知らせる軍事郵便。
「雨が多くスコールと時雨を想はせる様な雨天の日が続きます。でも雨の合間には灼熱の太陽が碧い空からざり
ざりと地上を熱し雄大な白雲が空を覆ひます」と、南洋での生活の様子が家族に紹介されています。

(資料番号:村上博資料群 1-10-2-14-1)

資料紹介 村上博資料群

倉方慶明(東京外国語大学文書館 研究員)

本年は戦後 80 年という節目の年を迎えます。戦争の時代、東京外国語大学の前身である東京外国語学校・東京外事専門学校の関係者もまた数多く従軍しました。そうした関係者が保有していた戦争の記録の一部は、現在、大学文書館に寄贈され、保管されています。

なかでも、東京外国語学校在学中に海軍に応召され、インドネシアに渡り、戦後 BC 級戦犯として起訴され、1948 年 7 月 10 日バタビヤにおいて処刑された村上博氏（1941 年 12 月馬來語部拓殖科卒業）の資料群には、東京外国語学校在学中のアルバム、家族との書簡や、従軍先からの軍事郵便、戦後の戦犯となった同氏の近況を伝える友人・弁護士等の書簡、そして遺書が含まれています。その一部を以下紹介します。

1. 1930-40 年代の東京外国語学校の様子を伝える記録

資料群には、村上博氏の幼少期からのアルバムや東京外国語学校入学前の福岡県鞍手中学校在籍時代の表彰状などが含まれていますが、主として 1938 年の東京外国語学校入学以降の資料で構成されています。

東京外国語学校への進学は親元を離れての暮らしであったためか、定期的に両親や二人の弟たちに書簡が送られ、書簡から学生生活の様子をうかがい知ることができます。

入学直後の 1938 年 5 月の書簡には、校内で開催された「国際野球戦」や「東京外語ボートレース大会」（学内競漕大会）など、外国語学校の「風物詩」とも呼べる行事の様子が記載されています。また入学当初より、その関心は卒業後の進路に向けられ、同年の馬來語部の就職状況がよかったことが、「商科大学入学、海軍司令部、南洋庁、南洋興発、栃木商事、台湾銀行」と進学・就職先を列記して具体的に伝えられています（資料番号: 1-10-2-22-1）。

二年生に進級した 1939 年 10 月の書簡には、野外演習や先輩のバタビヤ領事の歓迎会など校内の様子が記され、野外演習に際して「二年生の髪を伸ばしてある者約大半の者は、配属将校から髪を切らされたので、今では二年生全部丸坊主になりました」と軍事に傾倒していく時代をうかがわせる記述も見られます（資料番号: 1-10-2-12-1）。

四年生の冬、1941 年 11 月の書簡には、学生に対する徴用令が出されたことが「学校の方も愈々徴用令が内定してゐるようで馬來語部八名全部海軍省だそうです」と伝えられるとともに、「大学受験も二年間頑張ってきましたが、もうあきらめました。国家の為ですから致し方ありません」と、大学進学を断念したことが報告されています（資料番号: 1-10-2-13-1）。

また、書簡以外にも、資料群には東京外国語学校の合格発表直後に、実家の父親に送られた電報等が含まれています。「ガイゴニパスシタ」と合格を一言で報告した電報は、

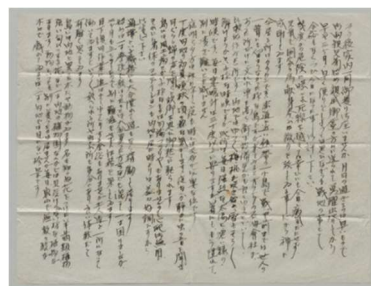
当時の地方からの進学者の受験の様子を伝える貴重な資料となっています（資料番号: 1-8-44）。

2. 従軍中の軍事郵便

徴用令を受け、1941 年 12 月に卒業した村上博氏は海軍予備学生課程を経て少尉となり、その後軍事通訳として南方へ派遣されます。従軍後も不定期ではありますが家族のもとに軍事郵便が届いていました。1943 年 2 月にタラカン島から届いた書簡では「赤道に近い熱帯」の島での生活や軍務の近況について、「通訳といふ職務にも大分慣れて過もなく精進して居ります」と伝えています。また同島には東京外国語学校の同窓生・先輩 3 名がいたようです（写真、資料番号: 1-10-2-29-1）。

軍事郵便は、戦時下における支配者・被支配者の関係性のなかではあるものの、東京外国語学校関係者による現地住民との交流や現地文化の観察の様相を示した書簡も数多く含まれています。

一例を挙げると、南洋に渡り 1 年を迎えた折に家族に送られた書簡には、「マレー語モ大分達者ニナリマシタ。當地ノ日本人モ相當マレー語モ話セル様ニナリ。近頃デハ日本人ト土人ノ會話ハ日本語、マレー語、手眞似・足眞似ト三様式揃ツテ傍カラ見テ居ルト愉快デス。此頃ハ私モ一所ニ作業シテ居ルインドネシヤ人ニ日本語や体操ナド教ヘテイマス。日本語ハマレー語ヨリモズツトノ難シイノデ年トツタ者ヤ文字ヲ解シナイモノナドハ、随分、困ツテ居ル様デスガ、ソレデモ眞面目ニ良ク勉強シマス。此頃デハ朝夕ノ會話ナド随分上手ニナリマシタ。彼等カラ見ルト日本語ニハヤハリ難シイ發音ガアル様デ「ツ」ナンカ出来ル者僅カデス。彼等ハ「ツ」ト言ヘズ「チュ」ト發音シマス。彼等ハ愉快デス。朝ナド習ヒ覺ヘタ日本語デ「アナター、オハヨー、ゴゼーマス」ナドト愛嬌者デス彼等ハ又音楽トオドリノ好キナ人種デス。」（資料番号: 1-10-2-10-1）と記載されています。



【写真_タラカン島からの軍事郵便】

本稿では資料群の一部の紹介となりましたが、2025 年 7 月より本資料群を含む企画展「戦後 80 年 戦時下の東京外国語学校・東京外事専門学校の学生たち」を開催しています。ご関心のある方はぜひお立ち寄りください。

連携企画展「内藤家資料群『教科書』にみる府中市域西部における近代教育の変遷」の開催について 倉方慶明(東京外国語大学文書館 研究員)

東京外国語大学文書館では、2016年より府中市立ふるさと府中歴史館と、府中市域の歴史資料に関する整理・保存・活用に向けた協働事業を進めています。

2023年度からは、前年度にふるさと府中歴史館が調査に着手した内藤家資料群について、その利用促進の方法を検討するための連携事業を開始しました。その一環として、春学期授業「市民社会と文書管理」の授業のなかで、同資料群を用いた体験型授業「地域資料の活用方法を考える」を企画し、学生とともに資料群の整理・保存、調査等の体験を通して、地域資料の利用促進の方法論の検討を継続的に進めています。

2024年度には、内藤家資料群に含まれていた教科書群に焦点を当て、その整理・保存措置と、調査を進め、2025年3月17日から5月15日にかけ、大学文書館展示場において連携企画展「内藤家資料群『教科書』にみる府中市域西部における近代教育の変遷～教科書にみる東京外国語学校の教員たち～」を開催しました。以下、連携企画展の一端を紹介します。

1. 内藤家資料群の概要

内藤家は、江戸期に現在の府中市域西部にあった武蔵国多摩郡本宿村の名主を担った家で、明治期に当主となった貞政清兵衛は組頭や戸長、村用掛などの村の要職に就き、1889年に西府村が誕生すると、初代村長を務めました。そのため、内藤家資料群には、戸長・村長を担っていた明治初期の「地租名寄帳」や諸税の出納帳、神奈川県からの布達等の公文書が多数含まれています。

また資料群には、内藤家が寛政年間(1879年頃)から昭和30年代半ばまで続けた醤油の醸造業に関する経営記録や、教科書群などの多岐にわたる資料が含まれており、地域の歴史・文化等を伝える貴重な資料群となっています。

2. 教科書群に見る府中市域西部の近代教育の変遷

～押印・書込みにみる使用教科書の軌跡～

内藤家資料群には明治・大正・昭和にまたがる290冊以上の教科書群が含まれています。

明治初期、文部省や師範学校は教科書の普及のため、小学教則の編成と、小学校教科書の編輯を進めました。編集された『小学読本』・『日本地誌略』・『万国地誌略』・『日本史略』・『万国史略』などの教科書は、翻刻が許可されたこともあり、各府県に広まっていきます。他方で、まだ全国への大量運搬が困難であった出版事情を反映して、教科書の印刷は地域ごとに行われており、検定

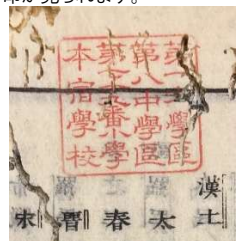
制度導入前までは、各府県・各地域において出版された教科書も採択されていました。

府中市域ではどのような教科書が使われていたのでしょうか。内藤家資料群に含まれる史料「奇秀学校教科図書等書上げ」は、府中市域西部にあった奇秀学校(現：府中市立府中第五小学校)の教員丸山嘉吉が1881年4月12日に「内藤大兄」(内藤清兵衛)に宛てた報告書で、当時使用されていた教科書が挙げられています。この記録により府中市域西部において使用された教科書の様子が分かります。

他方で、教科書の使用状況が分かる記録は、この書上げ1点しか残されておらず、教育の様相を伺い知る手掛かりは非常に少ないのが実情です。

しかし、内藤家資料群の教科書の一部には、表紙や裏表紙、1頁目などに押印や朱書きなどで、学校備付の「校用」教科書であることを示す「本宿学校」・「奇秀学校」の名称が記載されており、府中市域西部における使用された教科書の状況を推測することができます。

【写真 師範学校編輯『萬國史略 卷一』(明治9年7月、中外堂)]
表紙には「校用」の朱書きが、3頁目には「第一大学区第八中学区第七十九番小学本宿学校」の押印が見られます。



3. 内藤家資料群に含まれる外国語学校教員たちの著作

東京外国語学校の教員のなかには、各言語の辞書編纂や教材作成に携わった者や、各国の小説を翻訳し日本に紹介した者が多数いました。また教員の一部は、教科書や受験参考書の執筆・編集も手掛けています。

内藤家資料群には、東京外国語学校の教員が執筆・編集に関わった教科書などが含まれています。

以上、企画展の一部を紹介してきましたが、内藤家資料群の内容は、地域の政治・経済、教育・文化の普及等多岐にわたります。その整理は未だ途上にあります。資料群は地域の魅力を伝える貴重な情報源となり得ます。文書館では、今後もふるさと府中歴史館との協働により、その整備と利用促進の方法の検討を進めていく予定です。

東京外国語大学文書館日誌抄録 (2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日)

4.11(木)	資料寄贈(卒業生)	1.22(水)	展示ケース修繕打合せ
4.12(金)	資料寄贈(学内教員)	1.29(水)	連携打合せ(ふるさと府中歴史館)
4.22(月)	企画展「学内競漕大会の歴史 2024」開始 (7/24 迄)	2.10(月)	展示ケース(7 架)修繕完了
4.24(水)	文書館打合せ(寄贈資料受入れ方針検討)	2.26(水)	資料寄贈(卒業生)
5.14(火)	理事副学長会議において(寄贈資料の受入れ 方針決定)	2.27(木)	出張(助成事業調査)
5.17(金)	連携事業打合せ(ふるさと府中歴史館・府中 市役所)	3.5(水)	資料移管(学長室)、公益財団法人図書館振興 財団助成決定(事業名: 東京外国語大学所蔵 「八杉貞利ロシア関係資料」デジタルアー カイブ化)
5.22(火)	文書館打合せ(企画展・研修等方針検討)	3.14(金)	点検評価(期末報告)提出
5.27(月)	「令和 5 年度法人文書の管理の状況調査に 基づく「法人文書ファイル管理簿」等の提 出について(依頼)」及び「法人文書ファイル の回収のお願い」通知(総務企画課)	3.17(月)	企画展「内藤家資料群「教科書」にみる府 中市域西部における近代教育の変遷～教科 書にみる東京外国語学校の教員たち～」開 始(5/15 迄)、資料寄贈(卒業生関係者)
6.7(金)	公文書館長会議出席(篠原文書館長、倉方研 究員)、連携打合せ・展示見学(3 名)	3.19(水)	出張(助成事業調査)
6.12(水)	授業「市民社会と文書管理」において本館 およびふるさと府中歴史館所蔵資料を用い た体験型授業実施(6.12、6.19 の 2 回)	3.21(金)	出張(助成事業調査)
7.1(月)	法人文書ファイルの回収・評価選別(8/4 迄) 移管廃棄検討案調整。各課・室との評価選 別結果の協議(8/5 迄)	3.26(火)	特定歴史公文書等目録(2024 年度)・法人文 書ファイル移管報告書の公開、資料寄贈(卒 業生関係者)
7.10(水)	府中市中学校社会科教員向け巡研「公文書 にみる駅前再開発のいまむかし」実施	3.28(金)	冊子「中学校社会科公民的分野における公 文書活用のいろは」(公益財団法人日本教育 公務員弘済会助成)のウェブ公開
7.24(水)	企画展「東京外国語大学 150 年のあゆみ」 開始(3/17 迄)、ニューズレター(第 7 号)刊行	3.31(月)	資料寄贈(学内教員 2 件)
8.5(月)	法人文書ファイル移管最終案確定。移管対 象の法人文書ファイル低酸素処理開始。法 人文書管理ニュースレター刊行。法人文書 連携事業打合せ(府中市内中学校)		
8.22(木)	連携事業打合せ(ふるさと府中歴史館)		
8.27(火)	寄託資料整理打合せ		
8.28(水)	連携事業打合せ(府中市内中学校)		
9.11(水)	「地域の公文書を活用した中学校社会科公 民教材キット」を用いた授業実践(府中市内 中学校)		
9.13(金)	廃棄対象の法人文書ファイル溶解処分、資 料公開システム打合せ		
10.2(水)	授業「近代日本のなかの東京外国語大学」 (オンライン授業、全 13 回、1/15 迄)		
10.4(金)	点検評価(中間報告)提出		
10.12(木)	連携事業打合せ(ふるさと府中歴史館)		
10.29(火)	寄託資料整理打合せ(10.30 迄)		
11.12(火)	文書館施設見学(3 名)		
11.15(金)	連携事業打合せ(府中市内中学校)		
11.29(金)	資料寄贈(学内教員)		
12.12(木)	資料寄贈(卒業生関係者)		
12.19(木)	連携打合せ(ふるさと府中歴史館)		
1.15(水)	文書館打合せ(連携協定・規程改正)		

2025 年度企画展開催予定

本年度の企画展の開催予定は次の通りです。

◆開催期間

- 4 月～5 月 内藤家資料群「教科書」にみる府中市域西
部における近代教育の変遷～教科書にみ
る東京外国語学校の教員たち～
- 5 月～7 月 学内競漕大会の歴史 2024
- 7 月～11 月 戦後 80 年 戦時下の東京外国語学校
・東京外事専門学校(仮)の学生たち
- 1 月～3 月 「ロシア語教授 八杉貞利の軌跡」(仮)

◆開催場所: 附属図書館 1 階ギャラリー

※開催時間は附属図書館の開館時間に準拠します。



【左】
企画展
「内藤家資料群
『教科書』にみる
府中市域西部にお
ける近代教育の変
遷～教科書にみる
東京外国語学校の
教員たち～」

東京外国語大学文書館報 第 9 号 2025 年 9 月 5 日発行

編集・発行 東京外国語大学文書館

〒183-8534 東京都府中市朝日町 3-11-1 TEL 042-330-5842

E-mail tufsarchives@tufs.ac.jp

URL <http://www.tufs.ac.jp/common/archives/index.html>